

釧路市立小中学校のあり方検討委員会（第4回 2021年12月15日開催）

■発言要旨

委員：小規模学校のメリット・デメリットをもって、どちらが良い悪いは簡単に言えないが、児童生徒数が少なくなっている中で、小中一貫教育を進めることでは施設一体型の義務教育学校が非常に有効だと思う。義務教育学校の9年間の最終目標であるゴール、小学校1年生の先生も9年生の先生も1つの校舎で実際の生徒の姿を見て、一貫した方針で向かっていけるメリットは校舎一体型が非常に大きいと思う。市内全ての学校は当てはまらないだろうが、可能な範囲で施設一体型を進めるとするのはこれからの時代に合っていると感じる。

委員：へき地校を経験したことがあるが、小中の交流は生徒同士の交流・先生方との交流ということが成長のために良かったと感じている。

委員：施設一体型の義務教育学校の設置は賛成だが、教育課程を組むことが大変ではないか。

委員：義務教育学校のデメリットと言われている小学校6年生のリーダー性の欠如は、教育課程を柔軟に組んで、解消できると考える。釧路市の義務教育学校が全て同じ教育課程を組むことはないと思う。地域性を鑑みながら義務教育学校のメリットを最大限生かせる特色のある教育課程をそれぞれの学校毎に組んで行ければ良いのではないか。

委員：教科の乗り入れによる教科担任制、その中で9年間を一貫して子どもたちの成長を見守っていくということでプランニングをすることは、大変であるが今まで出来なかったことに対してのチャレンジという点も義務教育学校化の一つの要素と受け止めている。

委員：一部保護者の中には、校区変更で通学距離に非常に不安をもっているということを耳にする。何か案はあるのか。

事務局：選択区域の設定や、スクールバスの拡大の必要があると考えている。

委員：自分の子どもが、寿小学校と旭小学校の統合を経験している。関心のある保護者は住民説明会などに出向いて疑問も解消して納得できるが、参加しない保護者で不安な気持ちを抱えている方が多くいた。現在の保護者、これから入学してくる子の保護者の不安・不満を残さないためにも、市教委が考える以上に丁寧な説明が必要になってくると感じている。また、校区が広がることに関して、スクールバスが運行されれば少し安心できるかなと思う。きめ細やかな配慮をお願いする。

委員：スクールバスは安全の面としては良いが、体力づくりや友達との登下校などの人間研鑽の部分では、通学について細やかな要望が出ると思うので、その際は当該校と地域住民、保護者と教育委員会で討議していくことが十分必要だと思う。

委員：たたき台案に載っていない、統合がない学校の通学区域の見直しをして児童数を平準化する考えはあるのか。

事務局：校区の変更も考える必要があると認識している。次回たたき台としてあげていきたい。

委員：数合わせの義務教育学校化にみえるので、1校1校の義務教育学校の違いについて、もう少しわかるようになれば良いと思う。それぞれの良さが無いとみんな同じに見えるため、住民説明を行うにあたって気を付ける点だと思う。従来の小学校・中学校と別れていることと比べて1校1校独自の大きな変化が見えると良いと思う。

委員：廃校となる学校の活用の予定は今の段階であるのか。

事務局：現在は対象の学校が確定していないので、跡利用についても予定はない。

委員：義務教育学校は時代の流れに沿っていてメリットが多いということであるが、教職員のデメリットはあるのか。

委員：教員免許によって、前期課程・後期課程それぞれに制約される部分がある。小学校と中学校の文化の違いが出てしまって、職員室の中でみえない壁が出来るデメリットが考えられる。

事務局：小学校に教科担任制が導入されていく中で、中学の教科免許が無いと小学校に入っていくことが出来ないことがネックになっており、義務教育学校を抜きにしてもそういった部分の見直しについて国の動向を注視している。職員室の中の教員同士の見えない壁については、小学校の文化、中学校の文化というのを何とかやめてもらいたいという思いで小中一貫教育を進めており、施設一体型の義務教育学校というたたき台案を出している。

委員：小学校・中学校の教員の視点の違いを活かしながら歩み寄って、相互理解を深めるきっかけになると思う。主役の児童生徒にとってメリットは大きいのではないかと考える。

委員：日進小・東栄小・柏木小の統合時に子供がいたので、統廃合を体験した。当時と異なり、現在は小中連携が進んでいるので、釧路市が義務教育学校をスタートするには良いスタートが切れると思う。ものすごくメリットがあるということをきちんと伝えていけば、保護者の不安もかなり払拭できると思う。

委員：校区が広がった場合、児童館の利用・児童クラブの子ども達が児童館に通う際に歩く時間が長くなってしまう。その時の安全確保もあわせて考える必要があると思う。

委員：対象の校舎については、フロア面積などの問題はないのか。特別支援学級が増えてきているので、使用する教室が足りるのかという不安もある。また、不登校の児童生徒が相当いるというところで、問題解消に向けて空いた学校をそういった学校として取り扱っていくのか。

事務局：有効的な活用の視点から考えていく。

委員：統合すると教室数が結構減ると思うが特別支援学級はどうなのか。

委員：現在は教室内をパーテーションで区切って使用している学校が多い。今後改修する前の段階で教育委員会、学校現場と詰めて行けば、解決できるのではないか。今よりも使い勝手の良い小さな部屋が増えることは特別支援教育には良いことである。